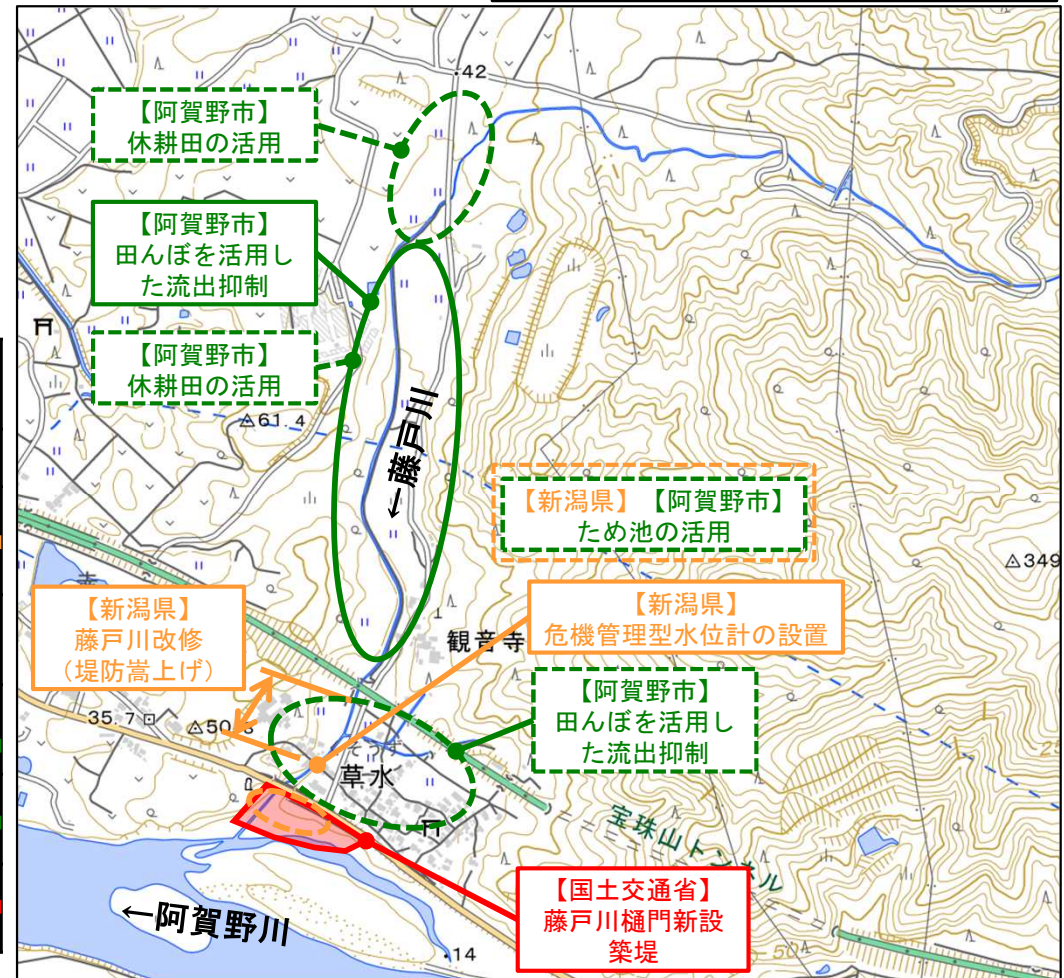


阿賀野川と右支川・藤戸川の合流点において、国による逆流防止樋門の整備に合わせ、県（支川管理者）による自己流堤整備（堤防嵩上げを実施）。更なる対策として、休耕田等を活用した流出抑制対策、雨水貯留対策などを行うことで、内外水ともに被害軽減を図る。

- 藤戸川流域治水対策 ※ □ は検討中
新潟県（支川管理者）
- ・藤戸川の河川改修（堤防嵩上げ）
 - ・支川水位情報の提供（危機管理型水位計）
 - ・緊急時の排水ポンプ車等による対応
- 阿賀野市（地元自治体）
- ・既存の田んぼを活用した流出抑制（貯留）
 - ・避難情報の拡充、防災塾の実施
 - 〔・休耕田、ため池を活用した対策〕
- 国土交通省（阿賀野川管理者）
- ・樋門、堤防の新設
 - ・避難情報等の充実及び提供



R5.05.09	打合（県、市建設・農林）：取組内容（素案）
R5.05.24	打合（市建設・農林）：取組内容（案）
R5.07.14	打合（地元、市建設・農林）：取組内容 内諾
	試験運用
R5.09.13	詳細検討のための現地調査
R5.10.12	現地確認（地元）
R5.12.20	打合（市）：詳細な運用方針（案）
	令和5年度中 詳細な運用方針を地元・市と調整予定

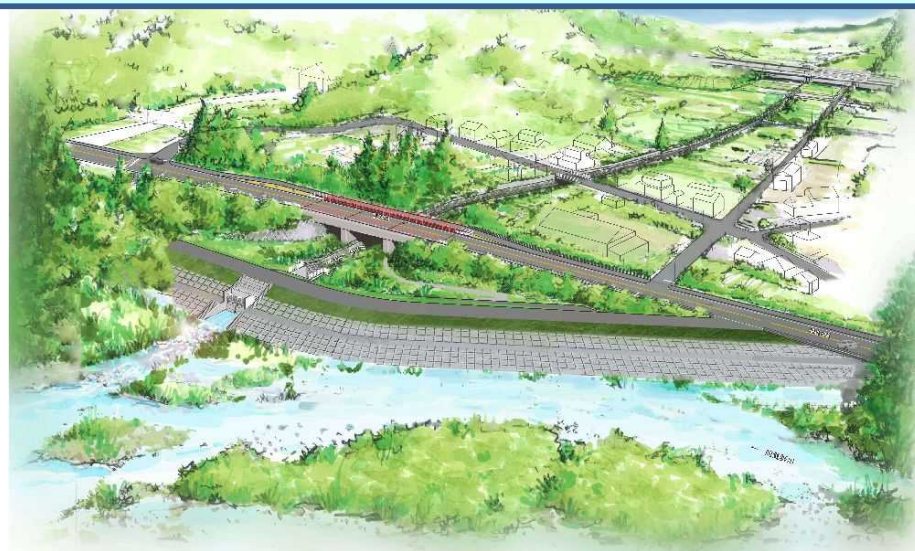


概略スケジュール

主体	整備内容	R2	R3	R4	R5	R6	R7
新潟県	藤戸川堤防嵩上	完					
	危機管理型水位計設置	運用					
市	田んぼを活用した流出抑制			調整	試験運用	運用	
	休耕田・ため池の活用		関係機関調整		運用（予定）		
	避難情報の拡充、防災塾の実施						
国	樋門・堤防新設	着手					完成（予定）

区 分	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
分 類	①洪水氾濫対策、②内水氾濫対策
実施内容	本川・支川、地域と連携した流域治水対策
実施主体	国土交通省 阿賀野川河川事務所、新潟県 新発田地域振興局、阿賀野市

阿賀野川と右支川・藤戸川の合流点において、国による逆流防止樋門の整備に合わせ、県（支川管理者）による自己流堤整備（堤防嵩上げを実施）。内外水への更なる被害軽減対策として、流出抑制対策や雨水貯留対策などの流域治水の取組を関係機関が連携し、検討をおこなっている。



藤戸川排水樋門・築堤・護岸イメージ図
藤戸川樋門・築堤整備イメージ図

取組状況

地元自治体（阿賀野市 建設課・農林課）
 藤戸川管理者（新潟県 新発田地域振興局）
 阿賀野川管理者（阿賀野川河川事務所）

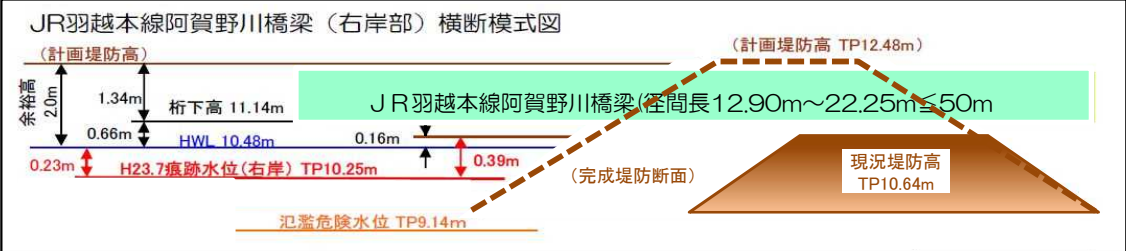
- ・藤戸川周辺での現地踏査（活用候補調査）
- ・三者打合せ
（他地域での取組事例、今後の進め方）



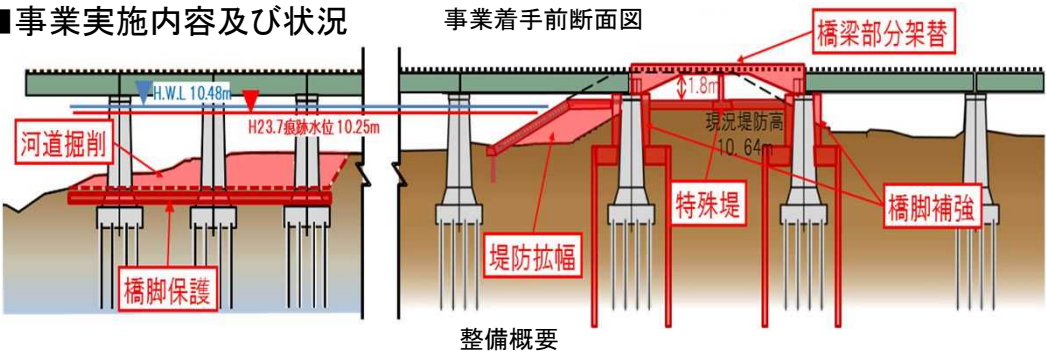
区 分	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
分 類	①洪水氾濫対策
実施内容	洪水を安全に流すためのハード対策の推進
実施主体	国土交通省 阿賀野川河川事務所

- ・JR羽越本線阿賀野川橋梁と堤防との交差部において、**計画上の堤防高さが不足し、阿賀野川で堤防から越流する危険性が最も高い箇所**となっているため、危険箇所の解消に向けJR東日本と連携して事業を実施し、**令和4年度完了**予定。
- ・事業完了に伴い、満願寺観測所対象区間の左右岸の治水安全度が同等となったため、左右岸別々だった基準水位を統一し、**新しく基準水位を設定**。

■事業実施前状況

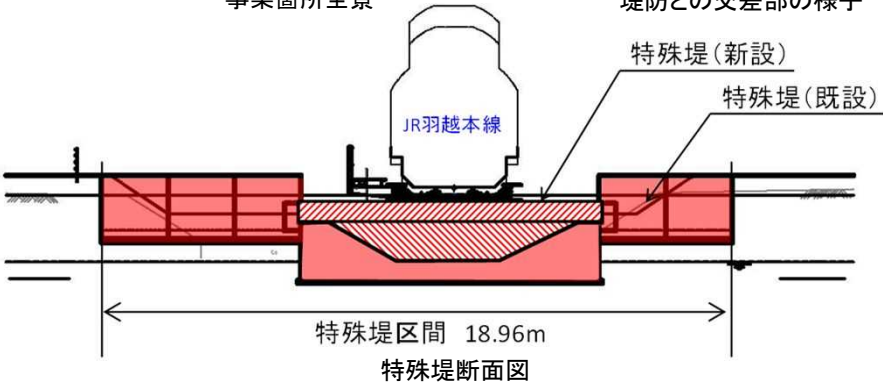


■事業実施内容及び状況



事業箇所全景

堤防との交差部の様子



■基準水位の変更

【現在の基準水位】R4年度迄

観測所名	水防団待機水位	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位 (特別警戒水位)	氾濫する可能性 のある水位	計画高水位
馬 下	19.65 m	20.15 m	22.00 m	22.80 m	24.48 m	24.40 m
満願寺 (右岸)	5.80 m	6.50 m	7.80 m	8.30 m	9.82 m	10.02 m
満願寺 (左岸)			8.00 m	9.00 m	9.98 m	
善 願	12.80 m	14.00 m	14.50 m	15.10 m	16.24 m	16.13 m

【新しい基準水位】R5年度以降

観測所名	水防団待機水位	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位 (特別警戒水位)	氾濫する可能性 のある水位	計画高水位
馬 下	19.65 m	20.15 m	22.00 m	22.80 m	24.48 m	24.40 m
満願寺	5.80 m	6.50 m	8.20 m	9.00 m	9.82 m	10.02 m
善 願	12.80 m	14.00 m	14.50 m	15.10 m	16.24 m	16.13 m

※「満願寺(右岸)」と「満願寺(左岸)」を「満願寺」に統一。「馬下」と「善願」は変更なし。

区 分	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
分 類	①洪水氾濫対策
実施内容	樹木伐採におけるコスト縮減の取り組み
実施主体	国土交通省 阿賀野川河川事務所

河川内の樹木は、洪水時に流れの妨げとなって、さらには流された樹木により、堤防や護岸などの河川管理施設に損傷等を与える危険性があり、治水上問題となっています。また、河川巡視の際の視野も遮られ、ゴミの不法投棄の温床となっています。このような河川管理上支障がある樹木の伐採を毎年、計画的に実施しています。樹木伐採にあたっては、経費の節約と伐採木の有効活用を図るため以下の取り組みを行っています。

- ① 希望する皆さんへ無償提供 ② 自治体にバイオ燃料用として無償提供 ③ 切り株の萌芽抑制

従来は、当事務所が伐採木を処分場まで運搬し、有料処分。



① 希望者へ無償提供
運搬費、処分費が縮減。薪ストーブやキノコ栽培等に活用している。

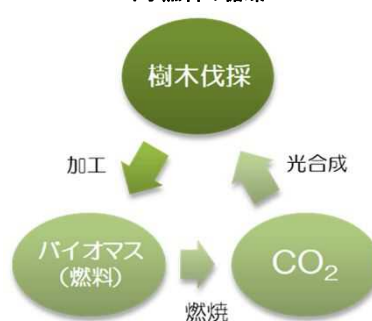


② バイオ燃料用として自治体へ無償提供

運搬費、処分費を縮減。自治体は伐採木をバイオ燃料に活用している。



バイオ燃料の循環

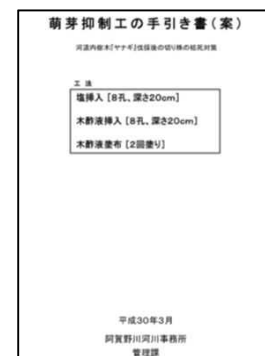


従来は、当事務所が伐採・除根。除去した根株を処分場まで運搬し、有料処分。

③ 切り株の萌芽抑制の試験施工

切り株からの萌芽対策で根株除去は高価であり、抑制処理を行うことで、伐採費全体を縮減。
令和元年度からは、覆土による追加試験を開始。

萌芽抑制工の手引き(案)H30.3策定



阿賀野川HPにて公開中
<http://www.hrr.mlit.go.jp/agano/index.html>

区 分	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
分 類	⑥その他(関係機関と円滑かつ効果的な情報共有方法の構築)
実施内容	Web会議を活用したホットライン環境の構築
実施主体	国土交通省 阿賀野川河川事務所

関係自治体に専用端末を設置し、web会議システムを用いたホットラインが可能な環境を構築。
Web会議システムを用いることで従来よりも円滑かつ効果的に災害時等における情報共有が可能。

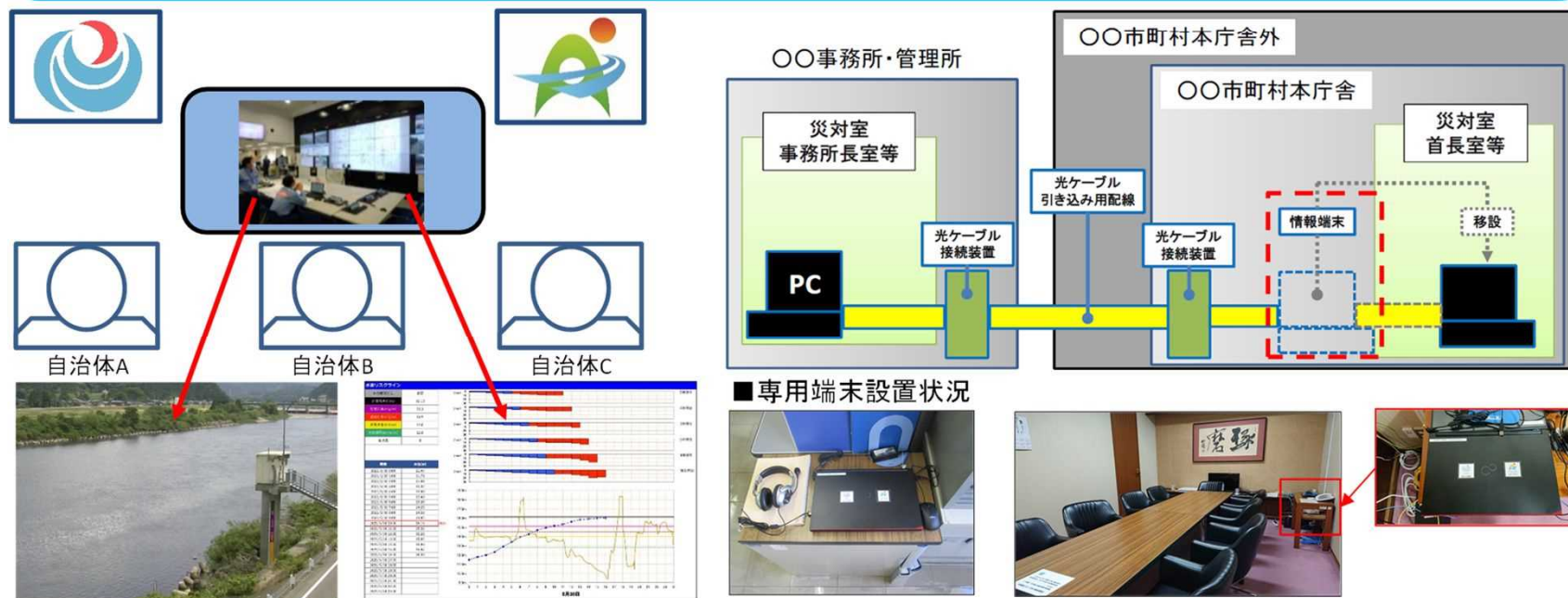
○従来のホットライン

・各機関と個別に電話による情報共有。



○Web会議システムを用いたホットライン

・多機関と同時に映像やデータを用いた“詳細かつ分かりやすい情報”の共有が可能。
・インターネット回線ではなく光回線を用いることから、安定した接続が可能。



■ホットラインイメージ

■専用端末設置状況

(様式2-取組概要)

区 分	I 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
分 類	② 内水氾濫対策
実施内容	ポンプ4台にて一級河川古川の内水を強制排水
実施主体	阿賀野川河川事務所、阿賀野市

一級河川古川の内水位が6.6mを超え、さらに上昇の危険性がある場合にポンプ排水を実施

